

平成24年度教育委員会事務点検評価(平成23年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

		整理番号	7
事務事業の名称	博物館企画展事業	担当部課	教育委員会 生涯学習部 博物館
		電話番号	04 - 2955 - 3804
実施期間	平成 3 年度 ~		
総合振興計画における位置づけ	5章 人を育み文化を創造するまちをめざして	実施根拠	博物館法及び関係令並びに狭山市立博物館条例及び狭山市立博物館管理規則
	1節 生涯学習の振興		
	施策 42 生涯学習の促進	個別計画の名称	
事業区分	<input type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 <input checked="" type="radio"/> 法定受託事務+自治事務		
事業開始の背景等	通史的かつ固定的な常設展示だけでは、博物館が陳腐化し、入館者は減少してしまう。そのため、創意工夫を凝らした企画展を開催し、入館者の増を図っていく必要がある。		

2 事務事業の目的・内容

目的	入館者の増を図るため、様々な角度からさらに「郷土狭山」を知ってもらうための展示、子ども達を中心に科学技術の素晴らしさを知ってもらうための「ものづくり」や科学分野に関する展示、他の博物館では見られない斬新な展示など創意工夫を凝らした企画展を開催する。		
対象	一般		
活動内容	平成23年度は子どもや親子で楽しめる「恐竜アート展と工作教室」、「日本の四季 鈴木至夫日本画展と展示解説会」、「古代の狭山 土器は語る」の企画展を開催した。企画・実施への市民等の参加については、博物館ボランティアの活用を図っている。PRは、広報、公式ホームページに記事掲載するほか、ポスター・チラシを市内公共施設や近隣市等の博物館等に配布するとともに、各自治会内にチラシの回覧を行なった。また、希望者に事業案内を送付している。		
(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価)	継続	
環境配慮	企画展などの展示パネル・展示造作などは再利用を図った。		
実施形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他( )		

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	目標値の根拠・考え方
(活動状況指標)	企画展開催日数	目標値	日	178	181	169	162	過去5年間の実績をもとに設定
		実績値		141	147	164		
		達成率		79.2%	81.2%	97.0%		
	企画展開催回数	目標値	回	3	3	3	3	
		実績値		3	3	3		
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%		
(成果指標)	企画展開催時の入館者数	目標値	人	37,169	34,958	33,336	29,544	過去5年間の実績をもとに設定
		実績値		41,348	18,203	22,240		
		達成率		111.2%	52.1%	66.7%		
	目標値							
	実績値							
	達成率							

4 事業費

区分		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	
経費	直接費	予算額	千円	4,000	3,000	3,435	5,362
		決算額	千円	3,885	3,247	3,477	
	財源内訳	国県支出金	千円				
		その他特定財源	千円				
		一般財源	千円	3,885	3,247	3,477	
	人件費	従事職員数	人	1.09	1.24	1.32	
		人件費(従事職員数×平均給与)	千円	10,023	11,149	11,889	
事業費計(直接費決算額+人件費)		千円	13,908	14,396	15,366		
効率性指標	指標名	企画展開催時入館者数	人	41,348	18,203	22,240	※1単位当たりの経費
	単位コスト	入館者1人当たりの経費	円	336	790	690	

5 事務事業の評価

◆第一次評価 (担当課による評価)

項目	評価の視点	評価	評価理由
個別評価	必要性	4	創意工夫を凝らした企画展を開催し、常に新しい情報を発信することにより、入館者の増加が図られるとともに、市民に新たな学習機会を提供することができる。
		前年度 4	
	有効性	4	子どもや親子で楽しめる恐竜アート展と工作教室、日本の四季を描いた日本画展と作品解説会、また、市内をはじめ県内外で出土した貴重な土器の展示を通して、市民等に学習機会や情報の提供を図った。企画展開催時の入館者数は増加した。
効率性	手段の最適性 ・コスト効率の向上 ・受益者負担の適正化 ・執行体制の効率化 など	4	展示委託業務の精査、ボランティアの活用、関連事業の実費負担、執行体制の効率化により、コスト削減が図られた。
		前年度 4	
< 5段階評価 >    5 : 極めて高い    4 : 高い    3 : 普通    2 : 低い    1 : かなり低い			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了			
今後の方向性	博物館協議会からの提言である「狭山らしさの創造」を基本理念として企画に取り組み、展示会を年間3回継続的に実施し、入館者の増を図っていく。また、研究活動などを地道に進め、市民に還元していく。		

6 その他(学識経験者の意見等)

企画展は博物館の活動の幅を広げるものであり、市民に対する学習機会として重要である。しかし、魅力ある企画展が開催されているにもかかわらず、入館者はそれほど増えてはいない。ターゲットを絞ってPRすることや、関係団体に呼び掛けたり、協賛企業などとの連携を工夫するなど、いろいろな試みが求められる。また、研究活動の展開とともに、地域課題解決への貢献も重要である。加えて、さらなるボランティアの能力向上や能力活用を図ることも求められる。